

瑞浪市で6代続く老舗左官店の小倉左官店に、世界を相手に技を競った若者がいる。同店の左官職人・牛丸和己さん(23)。2010年に「第48回技能五輪」左官職種で金賞を受賞。11年に英国で開催された「第41回技能五輪国際大会」の左官職種に岐阜県から初めて出場し、12人中4位に入った。現在は後輩を指導する機会も増えたが、牛丸さんは「左官屋は一生勉強」と、日々技を磨き続けている。

小倉左官店

(うしまる・かずみ)

牛丸和己さん

左官という職業を知ったのは中学生のころ。兄が家に持ち帰った「岐阜県立美濃加茂たくみアカデミー」(美濃加茂市)のパンフレットを手にしたのがきっかけだ。中学卒業後、同アカデミーの左官エクステリア科に入学し、1年間基礎を学んだ。自らを「好きなことには熱中するタイプ」という。左官の仕事が何かもわからずに入学した



仕事の現場も使う材料も、毎日変化する。「だから左官屋は一生勉強」という

「一生勉強」磨く腕

たくみアカデミーだが、「モノを作る過程が楽しかった」と振り返る。左官の仕事は、しっくいや石膏などの材料を練り、家の壁や床に塗って美しく仕上げること。しかし、塗る材料によって練り具合が異なるため、現場で調整を繰り返すことも多い。塗り一度きり。失敗は許されない。常に真剣勝負だ。

一方、技能五輪では仕上がりの美しさに加え、軽量鉄骨の組み立てや下地となるボード貼りなど、日本では左官の仕事でない作業も審査に含まれる。牛丸



材料の練り具合を厳しくチェックする。(中央が牛丸さん)

世界に挑んだ未来の匠

困難乗り越え栄誉つかむ

さんは国際大会の5カ月前から、過去に左官部門で国際大会の出場者を排出している新潟県の職業訓練校に outgoing、軽量鉄骨の組み立てやボード貼りの練習を繰り返した。

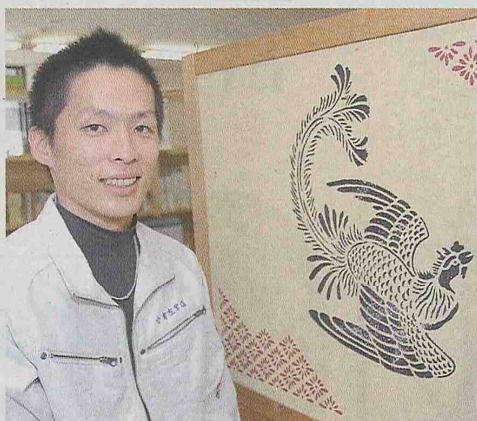
国際大会は4日間の日程で行われ、日ごとに異なる課題が与えられる。初日は軽量鉄骨の組み立て。練習を重ねてきた課題だったが、ミスをして大きく出遅れてしまった。しかし、2日目以降はじわじわと挽回し、3日目の石膏塗り仕上げで本領を発揮。猛烈な追い上げをみせた。

結果は4位だったが、仕上げの美しさや寸法の正確さは高く評価された。塗り終えた壁に好きな絵柄を描く最終日の「自由課題」では、「聚楽(じゅらく)仕上げ」という技法で鳳凰(ほうおう)にもみじをあしらった模様を完成させ、日本の伝統美も披露した。

実は、配布された材料の不足など、現場でのアクシデントも多かったという。「足りない材料は、その場にある他の材料を加工して代用した。応用力がないとクリアできなかった」と振り返る。

4位という結果には「店のお客さんをはじめ、た〜さんの人に応援してもらい感謝しているが、自分にとってはひとつのステップ。一度しか出られない大会なので、楽しく悔いなくできてほしいと考えていた。国によって仕事のやり方の違いも理解できた。結果には満足している」ときっぱり。

住宅建築様式の変化から、仕事が減少している左官業。このため、多くの左官業者は本来の仕事から離れ、外構工事などを手



技能五輪国際大会の自由課題で描いた鳳凰(ほうおう)

掛けるようになっている。それでも、牛丸さんは誇りを持って左官の腕を磨き続ける。「自分にとって、100%は完璧ではない。上限を決めたらそこが限界。常に100%以上をめざしたい。目標は独立。そして「いつの日か親方(小倉左官店代表の小倉道生さん)を超えたい」と目を輝かせる。